

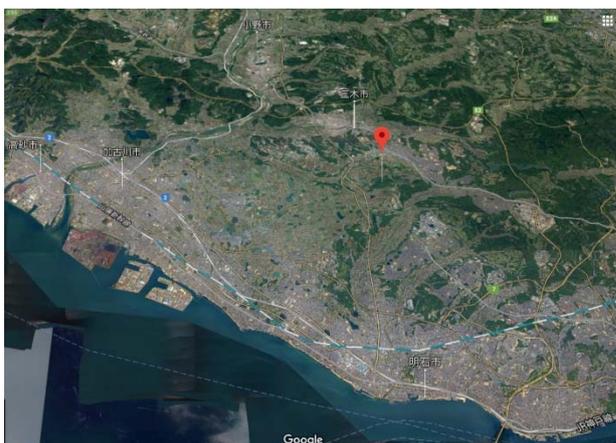
2019. 9. 21

畑啓之

はりま野は雌岡山をその頂とする西下がり、南下がりの台地である

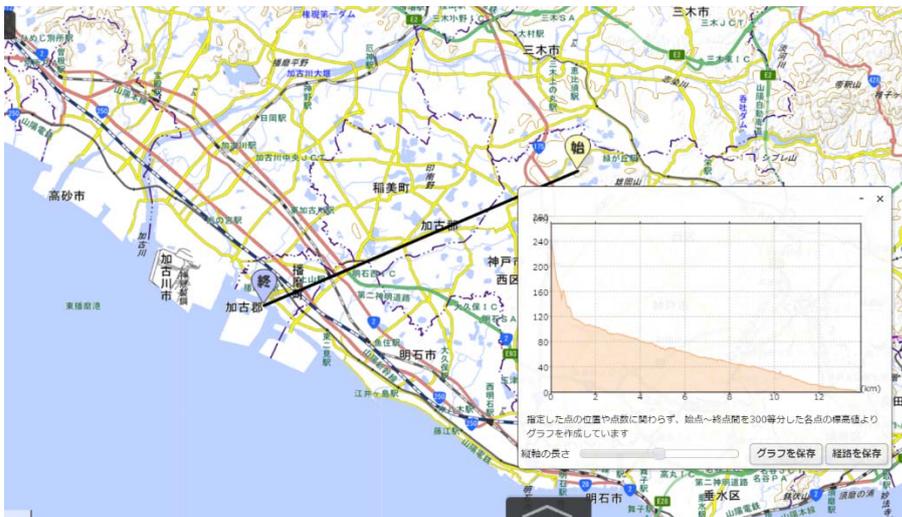
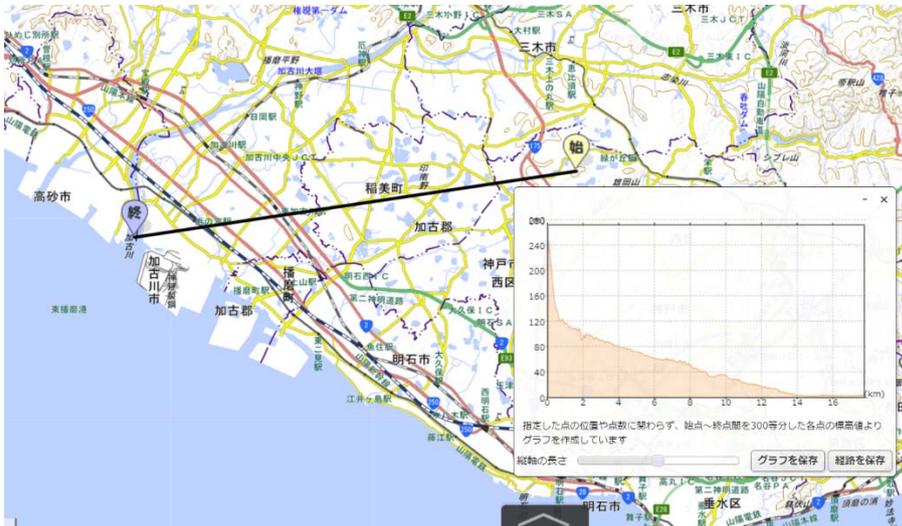
昨日のブログに引き続き、[国土地理院の電子地図](#)を利用して、稲美町を中心とするはりま野の地理的特徴を、その高低差を見ることにより理解した。下の地図で海拔高度測定のためとしているのが雌岡山（249m）で、その東に雄岡山（241m）がある。わずかながらではあるが、女性上位である。この雌岡山は別名天王山と言われ、昔から象徴的な山であったと思われる。電子地図からは雌岡山より西方向、そして南方向になだらかに連続的に高度が下がっていく様子が見て取れる。

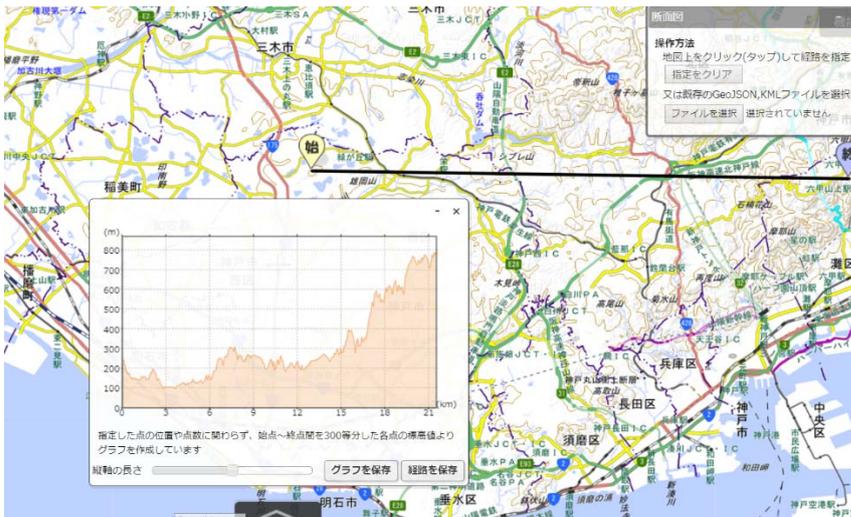
GoogleMap より（赤ピンの位置が雌岡山）

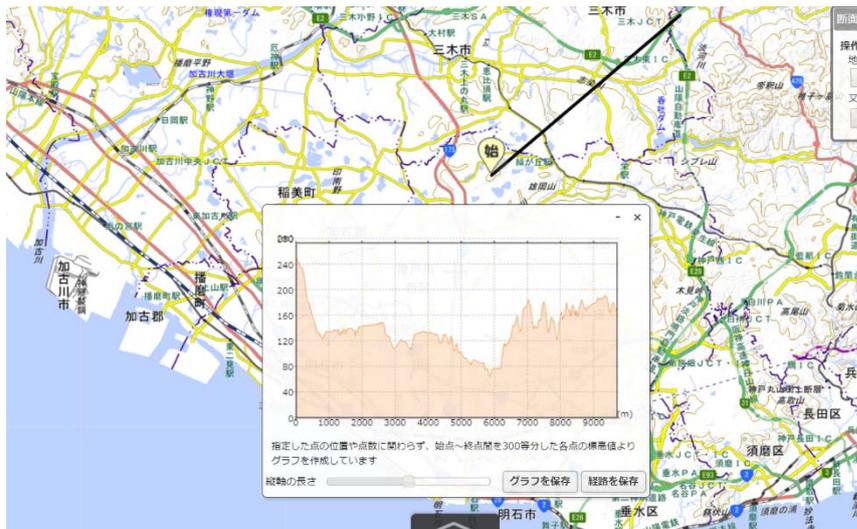


国土地理院の電子地図より（起点は雌岡山）









(参考)

雌岡山 (Wikipedia) より

雌岡山 (めっこうさん) は、神戸市西区神出町[1]にある標高 249mの山である。東播台地上の独立峰。東に約 2km 離れた雄岡山と 2 つのため池 (金棒池、大皿池) をはさみ対峙する。2 山は古くから信仰の対象とされ、共にふるさと兵庫 100 山に選定されている。山頂には神出神社 (雌岡山牛頭天王) をはじめ裸石神社、姫石神社があり、牛頭天王も祀っていたことから古くは「天王山 (てんのはん)」とも呼ばれていた。現在でも通称として存在する。

神出神社

山頂には、神出神社が社殿を南を向け建ち、境内からの見晴らしがいい。祭神は、素戔鳴尊、奇稲田姫命と、大己貴命。最初に素戔鳴尊、奇稲田姫命がこの山に降臨し、薬草を採取、住民の病を治療したり農耕を指導した。2 神の間には多くの神々が生まれたが、そのうちでも大己貴命はこの地で生誕した。こうした事実より、この地を神出と呼ぶに至った。大同 4 年には平城天皇が諸国巡幸の際に立ち寄り、故事をしのび 3 柱の神を勧請祭祀した。ここに神出神社が起る。のちに明治 7 年 2 月に村社に、明治 14 年には郷社となった。